

音楽を音と光で体験する

SOUND HUG™(サウンド ハグ) ピクシーダストテクノロジーズ株式会社

落合陽一氏が代表取締役CEOを務めるピクシーダストテクノロジーズ株式会社は、音楽を視覚と聴覚で楽しめる球体型デバイス「SOUND HUG®」を開発し、レンタルサービスを提供しています。



SOUND HUG

あなたの身体が耳になる。

音楽を体で感じる取り組み

SOUND HUG(サウンドハグ)は、抱きかかえることで、音楽を視覚(光)と触覚(振動)で楽しむことができる音楽装置です。楽曲全体や特定の楽器の音をミックスして球体内の振動スピーカーで再生することで、音楽を振動として感じるができます。

また、音程に合わせて球体が発光(低音だと青く、高音だと赤く光るなど)する仕組みになっていて、振動だけでは伝わりづらい曲の旋律を視覚で感じるができます。

SOUND HUGの原理

SOUND HUGは、音楽をリアルタイムに光や振動に変換することで、視覚や触覚による音楽体験を可能にします。視覚表現は、演奏された音楽を専用ソフトウェアで解析することで実現されます。音の強弱は光の強弱で表現され、音の高低は光の色で表現されます。(舞台の演出にあわせて色の制御も可能です。)

触覚表現は、SOUND HUG内部の振動スピーカーに音を出力することで実現し、音の強弱は振動の強弱で表現されます。SOUND HUGの外装はやわらかい素材の球体型で、抱きしめた時にダイナミックな振動から繊細な振動までを体で感じやすい設計となっています。

誰もが音楽を楽しむために

SOUND HUGは、筑波大学・筑波技術大学・筑波大学附属聴覚特別支援学校をはじめとする、聴覚障害がある人々にプロトタイプ

プ(試作品)を体験してもらい、感想や意見などを元に改良を重ね、実装するハードウェアを全体的に見直し、安定性を向上させ、あらゆるジャンルの音楽に対応できるように改良しました。

これまでに「耳で聴かない音楽会(公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団)」、「Hard Rock Family Live(ハードロック・ジャパン)」などの音楽イベントで、好評を博しました。

日本フィルハーモニー交響楽団主催で開催された「耳で聴かない音楽会」では、SOUND HUGを

体感した方から、「音と一体になって、楽しく音を吸収することができる」という感想が聞かれました。「音の強弱やリズムを体で感じることで楽しかった」や「色の変化が宝物のようで、目で音の高低を知ることができて幸せ」という意見とともに、「同時に視覚情報と聴覚情報の矛盾を処理する難しさも感じた」など、新しい課題も見えてきています。

今後も、音楽の楽しさをあらゆる人に届けるために、さらなる改良を続けます。

※「SOUND HUG」は、ピクシーダストテクノロジーズ株式会社の商標です。



「耳で聴かない音楽会」
主催:日本フィルハーモニー交響楽団、©山口敦